

道の駅整備の事後評価についての事例

3) その他の効果

① 主要な観光地へのアクセス向上

- 氷見市の観光入込客数は、氷見高岡道路の供用後は増加傾向となった。
特に氷見市の主要観光施設である『道の駅氷見』では、氷見高岡道路供用後に東海北陸自動車道の全線供用効果と併せて、東海地方を中心に県外利用者が大幅に増加した。
- また、平成24年10月、氷見市北大町の道の駅氷见到『ひみ番屋街&総湯』が開業しており、アクセス道路として氷見高岡道路が利用され、開業後の休日交通量が大幅に増加した。
- 氷見高岡道路の整備により、主要な観光施設へのアクセス利便性が向上し、観光客数の増加及び地域産業の発展に寄与している。

■ 氷見市の観光入込客数の推移



■ 道の駅『ひみ番屋街&総湯』

開業前後の休日平均交通量の変化



■ 道の駅氷見* 地域別観光バス入込台数



【参考】道の駅氷見『ひみ番屋街&総湯』



- 氷見市北大町市有地の利活用事業に選定され、平成24年10月5日に開業。(敷地面積: 約37,000㎡)
- 敷地内には、商業物販施設の「氷見漁港場外市場 ひみ番屋街」と温泉施設の「氷見温泉郷 総湯」を有し、事業計画では、年間約100万人の来場者(県内: 43万人/県外 57万人)、売り上げ約15億5千万円を目標としている。

■ 氷見市の主要観光施設



平成 27 年度

一般国道393号赤井川道路におけるストック効果の 発現状況について

～ 道の駅「あかがわ」の開業効果 ～

小樽開発建設部 道路計画課 ○佐藤 友祐
野藤 昌樹
水下りつ子

一般国道393号は、小樽市を起点とし、赤井川村を經由して倶知安町に至る延長約60kmの幹線道路である。赤井川道路は、通行不能区間9.7kmの解消を図り、地域間交流や物流効率化等を目的とした延長16.4kmの事業で、平成20年9月に全線供用している。本報告は、供用後から現在までの一般国道393号沿線で、今年開業した道の駅「あかがわ」を中心としたストック効果の発現状況について報告する。

キーワード：事業評価

1. 一般国道393号の歴史

一般国道393号は、戦後の緊急開拓のために建設された通称「小樽赤井川機械化道路（小樽～赤井川村間）」が開通した後に、倶知安町までも結ぶ機運が高まったことにより計画された道路に端を発する。この小樽市～赤井川村～倶知安町を結ぶ道路は、まず、道道の主要道路小樽仁木線、同倶知安赤井川線として道路事業が施行され、昭和57年4月付けで一般国道393号に国道昇格となった。

一般国道393号は、小樽市～倶知安町間で建設が進められてきたが、厳しい地形条件や地すべりが多発する地形により難工事となり、倶知安町までの全線が開通したのは平成20年と長期間を有することとなった。

2. 赤井川道路の概要

赤井川道路は、延長約60kmの一般国道393号の内、通行不能区間9.7kmの解消を図り、地域間交流や物流効率化等を目的とした延長16.4kmの事業で、昭和57年に事業化され、平成20年9月に全線開通した。

赤井川道路の開通は、多くの観光客が訪れる道内有数の観光地である赤井川村や倶知安町と周辺地域を結ぶ新たな周遊ルートを形成し、地域の交流や活性化を図ると



図-1 対象路線・区間

ともに、後志管内の観光振興へも寄与することが期待されている。



写真：小樽開発建設部

図-2 赤井川道路

3. 赤井川村の概要

(1) 人口

1, 126人（平成27年11月末日段階）

(2) 自然条件

赤井川村は、その四方を山々に囲まれた「カルデラ」状の地形をなしており、盆地特有の内陸型気候のため、市街地でも積雪が最大170cmにもなる北海道内でも有数の豪雪地帯であり、夏は昼夜の寒暖の差が大きく、果菜類の栽培に適した土地である。

(3) 主要産業

赤井川村の主要産業は、農業と観光業が栄んでおり、農産物の品目は米、馬鈴薯、南瓜、スイートコーンと多岐にわたり、北海道で栽培できる農産物は何でも出来るといわれている。

また、観光では、「大雪」を利用した「キロロ・スノーワールド」が有名であるが、近年、インバウン

ト観光による夏期の観光客も増加しており、観光・サービス業への就業者も増加している。

(4) 観光入込

赤井川村の主要産業の一つである観光入込の状況は、赤井川道路が開通したH20年度以降、通年では減少傾向であるが、冬期はほぼ横ばいで推移している。

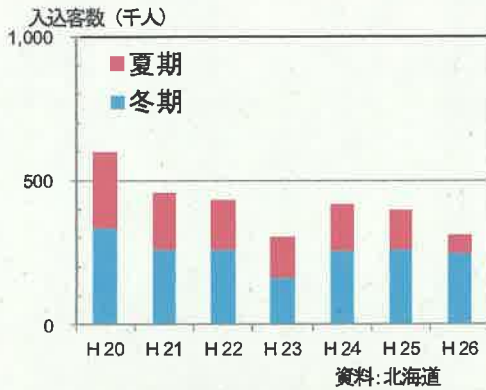


図-3 観光入込客総数

道内・道外別の入込状況を見ると、道外客の入込が増加傾向であるが道内客は大幅に減少しており、全体総数を押し下げている要因となっている。

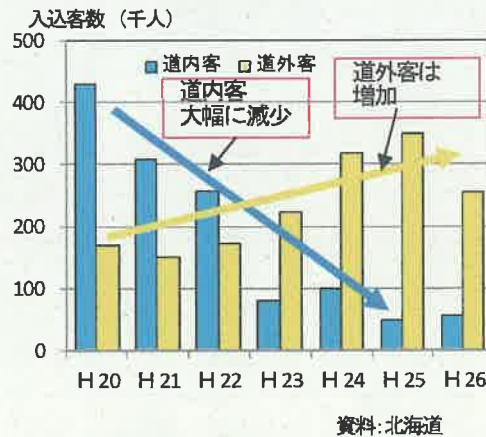


図-4 観光入込客総数に占める道内道外客の比較

また、外国人の延宿泊客数は、夏期、冬期ともに増加傾向となっており、H24年にキロリゾートがタイ資本となってからの伸びが顕著となっている。

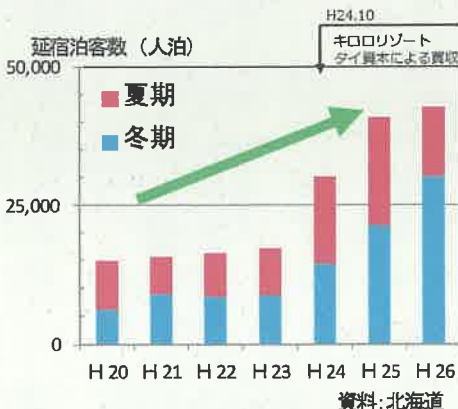


図-5 外国人延宿泊客数の推移

4. 整備効果の検討

(1) 道の駅「あかいがわ」の概要

道の駅「あかいがわ」は、当初村の駅「あかいがわ」としてH27.3.27に開業後、H27.4.15に全道115番目の道の駅として正式に登録された。(以下 当該駅とする)。当該駅は、シーニックバイウェイ指定ルートである「支笏洞爺ニセコルート」の一般国道393号沿いの赤井川道路の起点となる都交差点に位置しており、ニセコリゾートなどの広域観光案内や道路情報の発信拠点として、赤井川道路と連動した整備効果が発現されると期待される。ここでは、道の駅の利用状況、属性などの状況の分析から道路整備と道の駅の連動した効果につき、以下に述べる。



至赤井川市街 至倶知安 写真:小樽開発建設部

図-6 道の駅「あかいがわ」

(2) 交通量の状況

赤井川道路の開通年前後では、交通量が平日・休日ともに約1.6倍の増加となっており、道路開通による効果が発現されている。

一方、道の駅登録前後では、平日・休日ともに交通量は増加しており、とりわけ休日において約1.2倍の増加となり、道の駅が交通量の増加に関連していることがわかる。



図-7 赤井川道路開通前後の交通量の変化(秋期)

(3) 赤井川村の観光流動に見る効果

①道の駅アンケート結果からの来場者の傾向

・アンケート回答者

アンケート調査は、祝日は観光客が多く訪れることが想定されるシルバーウィークの9/21と、平日は行楽シーズンである10/15の各1日において、道の駅「あかがわ」の利用者を対象に実施した。

回答者は、祝日は122名、平日は88名の有効回答が得られ、年齢構成は平日・休日ともに60代が多かった。

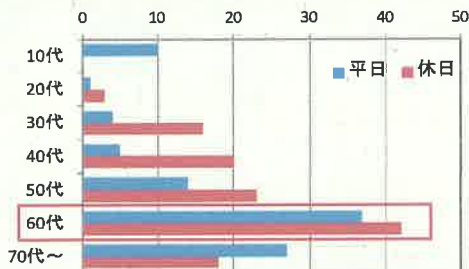


図-8 アンケート回答者年齢構成

また、方面別の内訳では、赤井川道路の開通効果が見られるニセコ方面の利用が約3割で、小樽・札幌方面から約4割、余市方面から約3割であり、利用者は、道内客が9割を占めていた。



資料：方面別内訳：H27 実施入場者アンケート結果 小樽開発建設部

図-9 道の駅入場者方面別内訳

・アンケート結果

道の駅利用者の目的は、観光とドライブが平日・休日ともに大半を占めており、一般国道393号を選択した理由としても、平日は風景を楽しむ利用者が約半数を占めているのに対し、休日は道の駅を目的とする利用者が多い結果となった。



資料：H27 実施入場者アンケート結果 小樽開発建設部
図-10 道の駅アンケート回答者 目的

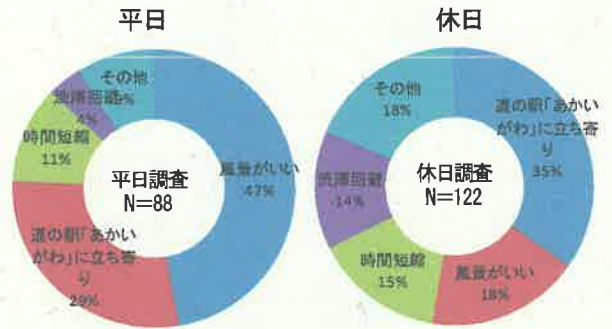


図-11 一般国道393号を選択した理由

また、道の駅に欲しいサービスや施設については、入浴関連施設を希望する利用者が多く見られ、村内にあるカルデラ温泉施設の活用も考えられた。

■あてて欲しいサービス・向上して欲しいサービス(n=113)

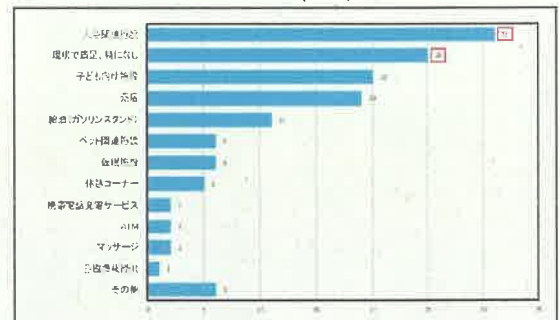
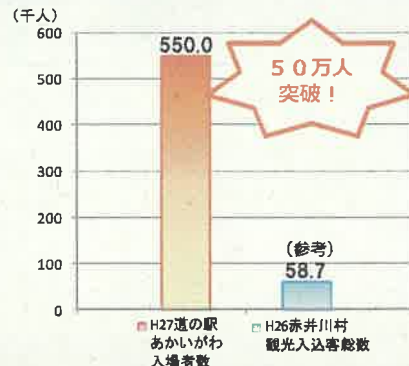


図-12 道の駅に欲しいサービスや施設

②村の各施設の入場者数とイベント入込数

当該駅の入場者数は、H27年10月末までH26年度同一期間の村全体の観光入込客数の約10倍に相当する50万人を突破した。



資料：入場者数 赤井川村 (3/27~10/31 まで)
観光入込：H26 北海道観光入込客数調査報告書 (北海道)

図-13 道の駅入場者数

また、一方では村内の人気施設であるカルデラ温泉で、道の駅の登録前後の夏期における入館者数が約1.3倍に増加し、村最大の地域イベントとなるメープル街道393もみじ祭りでも前年の約4倍に達するなど、道の駅登録の効果が発現されており、道の駅から村中心部への誘導により、今後さらなる増加が期待される。



図-14 カルデラ温泉入館者数

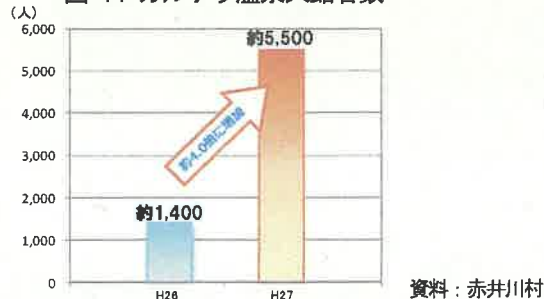


図-15 メープル街道393もみじ祭り入込数



写真：赤井川村

図-16 赤井川温泉(左写真)ともみじ祭り(右写真)

5. インバウンド観光の現状と今後の動き

(1) ニセコ地域の訪日外国人観光客

後志地域におけるニセコエリアの外国人観光客数は、H17年からH27年にかけての10年間で、後志全体で約3.5倍になっており、特にニセコエリアでは約4倍まで増加し、後志地域の約8割を占めている。



図-17 後志地域とニセコエリアの外国人延宿泊客数

(2) 周辺地域の開発計画

近年、後志管内では、ニセコエリアを中心にインバウンド観光を見越した開発計画が多数発表されており、赤井川村でもキロロリゾートが、タイ資本による買収や米国企業のホテル運営が発表され、今後さらにニセコエリア全体での外国人観光客の増加が期待される。

H19.8	香港企業ニセコHANAZONOリゾート買収(倶知安町)
H22.4	マレーシア企業ニセコビレッジを買収(ニセコ町)
H24.10	タイ資本がキロロリゾートを買収(赤井川村)
H27.12	米ホテル企業がルスツリゾートを運営(留寿都村)
H27.12	米ホテル企業がキロロリゾートのホテルを運営(赤井川村)
H31 予定	香港と米資本で宿泊施設を開業(ニセコ町)

表-1 赤井川道路周辺の主な買収・開発

(3) 周遊観光による波及の可能性

キロロリゾートでは、ニセコエリアで増加する外国人観光客が地域を周遊してもらうための方策として、定期バスを冬期シーズン(今シーズンはH27/12/20~H28/2/20)限定で運行しており、全道平均よりも長期滞在が多い、ニセコエリアの外国人観光客へ向けての周遊観光メニューとなっている。今後においては、ルスツリゾートや小樽・余市を含めた後志地域全体で、他のエリアに効果が波及する可能性がある。しかし、外国人観光客の移動実態は、地域ヒアリングでは確認されているが、具体的な移動手段や時間などの定量的な実態は十分に把握されていないため、これらの流動実態をヒアリングを始め、民間ビッグデータ等を活用して、可視化することで、道路整備効果の評価検証につなげていきたい。

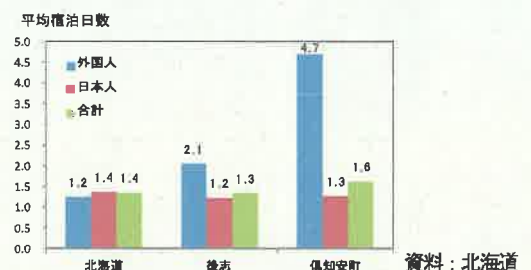


図-18 外国人の平均宿泊数の比較

6. おわりに

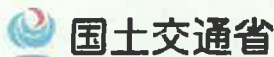
本報告では、赤井川道路開通による一般国道393号のネットワーク化から沿線に開業した道の駅「あかいがわ」やインバウンド観光によるストック効果の発現状況について、今後の調査計画も含めて述べた。小樽開発建設部管内では、今後も小樽余市間の開通や倶知安余市道路の建設など、新たな高規格幹線道路の整備がすすめられ、地域へのストック効果の発現が期待される。

今後においても、今回の検討結果も活用しつつ、評価結果を随時公表できるよう検討する次第である。

最後に資料の提供などご協力いただいた赤井川村役場のご担当者様や関連事業者様へ感謝の意を表したい。

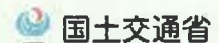
日常生活サービス機能が集約した「小さな拠点」事例集

平成24年9月10日
国土政策局総合計画課
道路局国道・防災課



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

日常生活サービス機能が集約した「小さな拠点」事例集について



<はじめに>

平成23年2月に公表された国土審議会政策部会長期展望委員会による「国土の長期展望」中間とりまとめにおいて、我が国全体が急激な人口減少・高齢化に直面する中、過疎化が進む地域では人口が現在の半分以下となるとの厳しい見通しが示されました。

こうした、維持・存続が危ぶまれる集落が全国各地で拡大していく状況に対し、国土審議会集落課題検討委員会のとりまとめ（平成22年1月）では、人口減少・高齢化の進展が著しい集落において、「小さな拠点」の整備とアクセス手段の確保により、集落の基礎的な生活サービスを確保するという考え方が提言されております。

過疎地域等の集落では、人口減少等に伴い、商店の閉鎖や医療提供体制の弱体化が進んだり、高齢化とともに自動車を運転する人の割合が減ることにより移動手段が確保できなくなるという現実があります。これに対して、診療所や介護施設、食料品や日用品を扱う商店、現金を引き出すための金融機関など、日常生活サービス機能を集約した「小さな拠点」を、車が運転できない高齢者であっても一度に用事を済ませられるように、徒歩で移動できる範囲内に形成するとともに、「小さな拠点」と周辺の他の集落とのアクセス手段を確保することにより、地域の生活・経済機能を維持していこうという考え方です。

「小さな拠点」の形成の促進については、「日本再生戦略」（平成24年7月閣議決定）のうち、「国土・地域活力戦略」に掲げられ、国土交通省としても「持続可能で活力ある国土・地域づくりを進める上でノウハウ・情報の提供等を通じて「小さな拠点」づくりを促進していくこととしております。

まず手始めに、国土交通省の所管行政と密接な関係を有する「道の駅」に隣接して診療所や介護施設等の日常生活サービス機能が集約した「小さな拠点」を形成している事例について、収集・整理し、事例集としてとりまとめましたので、公表いたします。

道の駅 清水の里・鳥海郷
 (所在地)
 秋田県由利本荘市鳥海町上笹子字堺台100

(位置図)

 (出典) yahoo地図より作成

(現況写真)

 (出典) 秋田県資料より

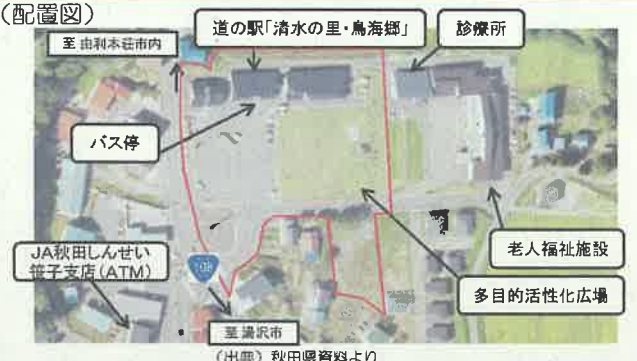
(道の駅の規模) 供用年月日: H16.9.3
 ■施設面積 約15,400㎡

(道の駅の施設) -整備主体: 由利郡鳥海町(現由利本荘市) -
 ■駐車場 88台(うち普通車79台、大型車7台、身障者専用2台)
 ■農産物加工施設
 ■農産物直売施設「直売所」、「食堂」
 ■多目的活性化広場

(隣接している施設)
 ■診療所「笹子診療所」 ■JA秋田しんせい笹子支店(ATM)
 ■老人福祉施設「ケアセンター悠楽館」

(バス路線)
 ■市営バス

(施設集約理由)
 ■(ア)道の駅の整備に当たり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約した
 ■(イ)元来諸施設が集約されている地区に、道の駅を整備した

(配置図)

 (出典) 秋田県資料より

道の駅 清水の里・鳥海郷
 (所在地)
 秋田県由利本荘市鳥海町上笹子字堺台100

施設集約理由
 <地域側施設以外の諸施設を意図的に集約した>
 <元来諸施設が集約されている地区に、道の駅を整備>

●意図的に集約を行った理由
 地域住民の利便性向上のため、エリア内に医療機関、老人福祉施設等を整備した。

集約の効果
 エリア何に医療機関、老人福祉施設及び金融機関がまとまっていることにより、地域住民の利便性が向上した。

道の駅の地域振興施設

●施設所有者: 由利本荘市
 ●管理・運営者: (株)ほっといん鳥海(由利本荘市の指定管理者)
 ●各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
農産物加工施設 (H16.8)	中山間地域総合整備事業(農林水産省補助)	—
農産物直売施設(直売所、食堂) (H16.8)	市単独事業(地方債、一般財源)	—
多目的活性化広場 (H17.4)	中山間地域総合整備事業(農林水産省補助)	—

隣接している施設

●各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称(供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法(整備主体)
笹子診療所 (H18.10)	内科、外科、消化器科	市単独事業(地方債)(由利本荘市)
ケアセンター悠楽館 (H16.4)	通所介護、居宅介護支援、知的障害者デイサービス、生活支援ハウス	老人福祉施設整備事業(厚生労働省補助)、一般財源(由利本荘市)
JA秋田しんせい笹子支店	貯金、保険業務(ATM設置)	(JA秋田しんせい)

道の駅 はくしゅう
 (所在地)
 山梨県北杜市白州町白須1308



(道の駅の規模) 供用年月日: H13.2.3
 ■立地面積 約7,539㎡
 (道の駅の施設) -整備主体: 北杜市(旧白州町)
 ■駐車場 91台(うち普通車85台、大型車4台、身障者用2台)
 ■農林産物販売所 ■レストラン「ごちそう屋おじら」
 ■観光案内所 ■休憩所
 (隣接している施設)
 ■市立白州診療所 ■市立白州保育園
 ■ショッピングセンター「食鮮館エブリ」
 (バス路線)
 ■市民バス(JR韮崎駅~下教来石)及び(JR日野駅、北杜高校等へ)
 ■清流と甲斐駒ヶ岳周遊バス(JR韮崎駅~JR小淵沢駅)※季節運行
 ■山梨交通高速バス 北杜・白州~新宿線
 (施設集約理由)
 (ア) (ショッピングセンターについて) 道の駅の整備に当たり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約した。
 (イ) (診療所について) 元来諸施設が集約されている地区に、道の駅を整備した。



道の駅 はくしゅう
 (所在地)
 山梨県北杜市白州町白須1308

施設集約理由
 <地域側施設以外の諸施設を意図的に集約>

●意図的に集約を行った理由
 集客力の相乗効果を狙い、道の駅とスーパーマーケットを集約。

集約の効果

買い物ついでに道の駅による者もあり、施設集約の効果が得られている。

道の駅の地域振興施設

- 施設所有者: 北杜市(旧白州町)
- 管理・運営者: 道の駅はくしゅう管理運営組合
- 各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
農林産物販売所、レストラン、観光案内所、休憩所(道の駅はくしゅう内)	山村振興等農林漁業特別対策事業(農林水産省補助)	657百万円

隣接している施設

- 各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称(供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法(整備主体)
市立白州保育園(S53.4)	保育	(北杜市)
市立白州診療所(S20年代)	内科	(北杜市)
ショッピングセンター「食鮮館エブリ」	食料品、雑貨、クリーニング	(民間)

道の駅 南アルプスむら長谷
 (所在地)
 長野県伊那市長谷非持1400

(位置図)

 (出典) yahoo地図、ウィキペディアより作成

(現況写真)

 (出典) 伊那市パンフレットより


(道の駅の規模) 供用年月日: H9.4.11
 ■立地面積 約5,700㎡

(道の駅の施設) -整備主体: 上伊那郡長谷村(現在伊那市) -
 ■駐車場 95台(うち普通車93台、大型車2台)
 ■地場産業振興施設
 (物産品販売所「ファームはせ」、パン工房「パンや」、レストラン「野のもの」等)
 ■協同活動拠点施設
 (会議室等)

(隣接している施設)
 ■美和診療所 ■特別養護老人ホーム「サンハート美和」
 ■長谷健康増進センター ■南アルプス村公園

(バス路線)
 ■JRバス

(施設集約理由)
 ■(ア)道の駅の整備にあたり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約

(配置図)

 (出典) 伊那市地図情報システムより 9

道の駅 南アルプスむら長谷
 (所在地)
 長野県伊那市長谷非持1400

施設集約理由
 <地域側施設以外の諸施設を意図的に集約>

●意図的に集約を行った理由
 南アルプスの観光と合わせ、国道西側に公園を設置し来客者等の憩いの場所を設置。

集約の効果
 住民の利便性のみならず、観光客の憩いの場、さらには地域の情報提供の場となった。

道の駅の地域振興施設

●施設所有者: 伊那市
 ●管理・運営者: 道の駅南アルプスむら長谷管理組合
 ●各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
地場産業振興施設 (物産品販売所「ファームはせ」、パン工房「パンや」、レストラン「野のもの」等)	林業構造改善事業(農林水産省補助) 地域林業振興総合対策事業(農林水産省補助) 新山村振興農林漁業特別対策事業(農林水産省補助) 過疎債	80百万円
協同活動拠点施設(会議室等)	地域林業振興総合対策事業(農林水産省補助) 過疎債	40百万円

隣接している施設

●各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称 (供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法 (整備主体)
サンハート美和 (H15)	特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、居宅支援事業	国・県補助 (上伊那市社会福祉協議会)
美和診療所 (H15)	内科、消化器科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科	市単独事業(過疎債) (伊那市)
長谷健康増進センター (H15)	健康相談、トレーニングルーム、鍼灸治療所、地域包括支援センター等	市単独事業(過疎債) (伊那市)
南アルプス村公園 (H15)	公園	新山村振興農林漁業特別対策事業(農林水産省補助) (伊那市)

道の駅 瀧之拝太郎
 (所在地)
 和歌山県東牟婁郡古座川町小川
 774番地1



(出典) 和歌山県HP、記者発表資料 (H22.8.24) より作成



(道の駅の規模) 供用年月日: H24.3
 ■施設面積 約4,000㎡

(道の駅の施設) -整備主体: 東牟婁郡古座川町-

■駐車場 約40台 ■小川へき地診療所(小川総合センター)
 ■農産物直売施設 ■古座川町役場小川出張所(小川総合センター)
 ■ヘリポート(予定) ■集会所(小川総合センター)

(隣接している施設)
 ■小川簡易郵便局

(バス路線)
 ■古座川町ふるさとバス

(施設集約理由)
 ■(ア)道の駅の整備にあたり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約



道の駅 瀧之拝太郎
 (所在地)
 和歌山県東牟婁郡古座川町小川
 774番地1

集約が実現した理由
 <地域側施設以外の諸施設を意図的に集約>

●整備するための用地確保方法
 廃校となった中学校の跡地を活用。

集約の効果

施設を集約することにより、地域住民の利便性向上及び、観光客の誘客にもつながり、地域内外との住民との交流機会の増加が期待できる。

道の駅は、地域情報を発信する場所でもあり、古座川町にある自然豊かな観光資源を活かした体験観光等の取組を行うことができ、農産物直売施設では地元特産品の販売の売り上げ増も期待でき、高齢者が多く過疎化が進んでいる地域住民の地域づくりにも寄与することを期待している。

道の駅の地域振興施設

- 施設所有者: 古座川町
- 管理・運営者: 古座川町(農産物直売施設運営開始後は物産販売者が運営を行う)
- 各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
農産物直売施設	「山の恵み」活用事業(県補助)	13百万円
小川総合センター (小川へき地診療所、古座川町役場出張所、集会所)	町単独事業(一般財源)	16百万円

隣接している施設

- 各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称 (供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法 (整備主体)
小川簡易郵便局	郵便、預貯金等	—

道の駅 鯉が窪
(所在地)
岡山県新見市哲西町矢田3538-1



(道の駅の規模) 供用年月日: H9.4.18

■立地面積 約15,000㎡

(道の駅の施設) - 整備主体: 阿哲郡哲西町 (現在新見市) -

■駐車場 41台(うち普通車33台、大型車6台、身障者用2台)

■レストラン「山野彩館」 ■物産品販売所

■体験施設「昔ばなしの里」 ■製パン施設 ■製粉施設

■伝統文化等保存伝習施設「文化伝習館」

(隣接している施設)

名称: 複合施設「きらめき広場・哲西」

■内科診療所、歯科診療所 ■図書館 ■文化ホール

■保健福祉センター ■バスターミナル ■生涯学習センター

■新見市哲西支局

(バス路線)

■市営バス・福祉バス等

(施設集約理由)

■(ア)道の駅の整備にあたり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約



道の駅 鯉が窪
(所在地)
岡山県新見市哲西町矢田3538-1

施設集約理由
＜地域側施設以外の諸施設を意図的に集約＞

●意図的に集約を行った理由

町庁舎の立て替えが必要になったことを契機に、地域住民の意向聴取と協議を重ねて、住民が望む公共施設を集約建設することにより利便性を向上させるとともに、にぎわいの場を創出

集約の効果

- ・施設内セクション間の壁が取り払われ連携・提携・一体感が生まれた
- ・利便性の向上(ワンストップサービスの提供)、施設機能への安心感
- ・さまざまな目的で訪れる人々による賑わいの創出
- ・人々の交流促進、地域の連帯感の強化
- ・施設づくりで培われた住民の参加意識の向上

道の駅の地域振興施設

- 施設所有者: 新見市
- 管理・運営者: 株式会社 アクティブ哲西(新見市出資の第三セクター)
- 各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
レストラン「山野彩館」	地域振興事業・県境市町村等振興事業(県補助) 過疎債、県貸付金、一般財源	11百万円
物産品販売所 体験施設 「昔ばなしの里」	山内振興等農林漁業特に対策事業(農林水産省・県補助) 補正予算債、一般財源	175百万円
文化伝習館	山内振興等農林漁業特に対策事業(農林水産省・県補助) 過疎債、一般公共債、一般財源	119百万円
製パン施設	町単独事業(過疎債、一般財源)	42百万円
製粉施設	町単独事業(過疎債、一般財源)	69百万円

隣接している施設

●各施設の提供サービス概要、事業手法:
【複合施設「きらめき広場哲西」(H13.10)】

施設名称 (供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法 (整備主体)
診療所	内科	町単独事業(町債、過疎債、地域総合整備事業債、臨時敬老対策事業債、緊急地盤整備事業債、県貸付金、一般財源) (新見市(旧哲西町))
歯科診療所	歯科(週5日)	
保健福祉センター	機能訓練、リハビリ施設	
図書館		
生涯学習センター	集会所、研修室、創作活動室	

道の駅 田野駅屋
 (所在地)
 高知県安芸郡田野町1431-1



(道の駅の規模) 供用年月日: H16.8.9
 ■施設面積: 約2,500㎡
 (道の駅の施設) -整備主体: 田野町-
 ■駐車場: 約40台(大型3台含)
 ■地場産品直販所 ■情報発信コーナー ■軽食コーナー
 (隣接している施設)
 道の駅整備後に出来た施設
 ■コンビニエンスストア ■四国銀行(ATM) ■田野町地場産品加工施設 ■ドラッグストア
 道の駅整備前からあった施設
 ■田野病院 ■中芸消防署 ■スーパー ■ホームセンター
 (バス路線)
 ■高知東部交通 高知甲浦線(田野役場通)
 (鉄道路線)
 ■土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線(田野駅)'
 (施設集約理由)
 (イ)元来諸施設が集約されている地区に、道の駅を整備した
 (ウ)道の駅を整備した後、特段の意図はなかったが諸施設が立地した



道の駅 田野駅屋
 (所在地)
 高知県安芸郡田野町1431-1

集約が実現した理由
 <元来諸施設が集約されている地区に道の駅を整備>
 <道の駅を整備した後、特段の意図はなかったが諸施設が立地>

- 意図的に集約を行った施設**
 地域の経済・文化・交流の拠点、地域の玄関口として、地場産品加工施設、情報発信コーナーを追加・改修・整備し、路線バスのバス停も駅前に移設。
- 市町村の立地誘導措置**
 特段の誘導措置はとっていないが、コンビニ、地方銀行支店(ATM)、ドラッグストア等が移転または新設。
- 整備のための用地確保方法**
 国道沿いに、総合病院、消防署、役場、郵便局等公共施設に近い場所として、拠点化を目指し、国道沿いの一般農地を購入。

集約の効果
 施設建設により、更なる利便性の向上と、地域住民と地域外を結ぶ拠点・玄関口として、地域内外の人が集まるエリアとなっている。

道の駅の地域振興施設

- 施設所有者: 田野町
- 管理・運営者: 田野駅屋連
- 各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
地場産品直売所、情報発信コーナー、軽食コーナー	町単独事業(過疎債、一般財源等)	120百万円

隣接している施設

- 各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称(供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法(整備主体)
コンビニ	24時間営業、公衆電話等	-
四国銀行田野支店	預貯金(ATM設置)	-
田野町地場産品加工施設	地場産品加工・販売	町単独事業(過疎債・一般財源)(田野町)
医療法人 田野病院	外科、整形外科、脳神経外科、総合診療科等 居宅介護支援事業所、ホームヘルパーステーション、訪問・通所リハビリテーション	-
サンシャインゆい(スーパー)	食料品販売(ATM設置)	-
ホームセンターマルニ	日用雑貨販売	-
かもめ薬局	医薬品販売	-

道の駅 子守唄の里五木
(所在地)
熊本県球磨郡五木村甲2672-53



(道の駅の規模) 供用年月日: H16.4.1
 ■立地面積 約13,000㎡
 (道の駅の施設) -整備主体: 五木村-
 ■駐車場 83台(うち普通車70台、大型車7台、身障者用6台)
 ■物産館「山の幸」「五木茶屋」
 ■温泉「夢唄」
 ■交流施設(資料展示室、レストラン)
 ■子守唄公園
 (隣接している施設)
 ■五木村保健福祉総合センター
 ■五木村診療所
 ■五木郵便局
 (バス路線)
 ■産交バス 隣接バス停「温泉センター前」
 (施設集約理由)
 ■(ア)道の駅の整備に当たり、地域側施設以外の諸施設を意図的に集約した



道の駅 子守唄の里五木
(所在地)
熊本県球磨郡五木村甲2672-53

施設集約理由
 <地域側施設以外の諸施設を意図的に集約>

●意図的に集約を行った理由
 川辺川ダム建設計画に伴う代替地計画を契機に、移転住民の意向を踏まえ、公共施設の集約による利便性向上とにぎわいの場所を創出。

●市町村の立地誘導措置
 特段の誘導措置はとっていないが、諸施設が集約された結果、移転を契機に郵便局が隣接地に立地。

集約の効果

施設集約により地域外利用者と住民との交流が図られる。

道の駅の地域振興施設

- 施設所有者: 五木村
- 管理・運営者: (株)子守歌の里五木(五木村出資の第3セクター)
- 各施設の事業手法・事業費:

施設名称	事業手法	事業費
物産館「五木茶屋」	村単独事業(一般財源)	35百万円
物産館「山の幸」	山村振興農林漁業特別対策事業(農林水産省補助)	115百万円
温泉「夢唄」	村単独事業(一般財源)	340百万円
交流施設「夢唄」	先駆的木造公共施設実証事業(農林水産省補助)	270百万円
子守唄公園	村単独事業(一般財源)	51百万円

隣接している施設

- 各施設の提供サービス概要、事業手法:

施設名称(供用・開業時期)	提供サービス概要	事業手法(整備主体)
五木村保健福祉総合センター(H14.4)	機能訓練、リハビリ、生活支援ハウス	保健衛生施設等施設整備事業(厚生労働省補助)(五木村)
五木村診療所(H14.4)	内科、外科、歯科	村単独事業(五木村)
五木郵便局(H15.4)	郵便、貯金、保険業務(ATM設置)	-